

令和3年度 中学生の「税についての作文」 優秀作品紹介

11月13日(土)、玉名市民会館大ホールで、令和3年度中学生の「税についての作文」表彰式が開催されました。

今年度は荒尾玉名地域の中学生3,925人から1,108編の応募があり、和水町からは4人の生徒が表彰されました。

また、「税についての作文」の募集について、特に協力が顕著な中学校として三加和中学校に全国納税貯蓄組合連合会から感謝状が贈られました。



- ・熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞……………吉永希和 (三加和中学校2年)
- ・玉名税務署長賞……………鍋島彩里 (三加和中学校3年)
- ・和水町長賞……………谷崎真唯 (菊水中学校3年)
- ・和水町教育長賞……………池田啓太郎 (菊水中学校3年)
- ・全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推進校感謝状…三加和中学校

『みんなのために』



三加和中学校 二年 吉永希和

日本には、義務教育という制度があり、年齢に応じて、小学校、そして中学校に通っていく。小学校、中学校には、設立から個人で使用される机や教科書にいたるまで、税金が使われている。

また、学校に勤務している先生達などの教職員のお給料や経費も税金から支払われており、税金が給料として支払われている人達のことを公務員といったりする。毎年、各教科の教科書が配られるときなどには先生方が、教科書は税金で買ってもらったもののため、大切に使用する事を話される。公務員には、警察官や消防士などさまざまな職が含まれている。その職業は共通して、皆が安心安全でより豊かに暮らせるためにあるのだと思う。

しかし、現代では少子高齢化が進み、一人あたりの支払う税金が高くなってきている。このままだと、所得

が少なくなり、生活に余裕がなくなってしまう。そして、お年寄りが増えるばかりで子供が少なくなる。すると、また一人あたりの税金が増え、所得が減って、物価が低くなり、経済が停滞してしまうという悪循環につながりかねない。

私は、義務教育は先行投資だと思う。今からしっかりと基礎を学び、社会にでて働くようになったときに税金を支払うことで還元されていっているのではないかなと思う。また、税金の支払いには、年金の前払いだという考え方もある。

近年、税に関して、さじを投げる人がいたりするが、私は、義務教育や年金、他にも気づきにくいところで返ってきていると思う。例えば、道路整備や国の防衛などいつもあたり前だと思っているところこそ、税金が使われていたりもする。あまり気づかないようでも、税金は私たちの役に立っている。何気ないことにも感謝し、いつものあたり前にもたくさん人の努力と労力があって、その上に成り立っているということを忘れてはいけないと思う。誰もが等しくこのように思うことは不可能だろうが、少しでも多くの人々がそうなってくれば、自分勝手な人は減ると思う。



熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞



三加和中学校 三年 鍋島彩里



玉名税務署長賞

『みんなの生活と命を守る税金』

2019年、12月初旬、中国の武漢市で第1例目の新型コロナウイルス感染症患者が報告されると、それからわずか数か月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった。日本でも驚くほどのスピードでみるみる感染者数が増加していった。2020年、4月16日、全国に一回目の緊急事態宣言が出された。外出の自粛をはじめ、学校の休校や、百貨店や映画館、飲食店など多くの人が集まる施設の使用制限などの要請や指示が行われた。すると、十分な営業ができず、自粛の呼びかけによりお客さんも入ってこなくなり、経営が厳しくなるお店が増えていった。ニュースでも毎日多くの新規感染者数が伝えられ、「医療崩壊」という言葉もよく耳にするようになった。そんなときに救世主かのように現れたのが「税金」である。

新型コロナウイルスの影響で生活が苦しくなっている方に支給される「生活困窮者自立支援金」、要請が行われ、勤務時間が

短くなった方や、休業中に賃金を受けることができなかつた方に支給される「対応休業支援金」、国民一人当たり一律十万円支給された「特別定額給付金」、これらすべて税金から出されたものである。他にも、新型コロナウイルスのワクチン接種や、PCR検査など、税金のおかげで無償で受けることができる。私の母は、高齢者の方々の介護をする老人ホームに務めている。コロナウイルスは高齢者の方ほど重症化しやすいものもあるので、母は一人でも感染してしまつと、すぐに広まる可能性が高く、心配だと話していた。そんなときに日本にワクチンが導入され、税金のおかげもあり、母や高齢者の方々はすばやくワクチンをうつことができた。早急に施設の皆様がワクチンを接種することができたからか、母が務めているその老人ホームには、まだ一人もコロナウイルス感染者は確認されていないそうだ。このことを聞いた私は、税金は私たちの生活と命まで、守ってくれるヒーローのような存在にみえた。

このような、おもしろい世界にみえた。中でも私たちが救ってくれている税金。税金について、さまざまな声があがっている世の中だが、私はすばらしいシステムだと思ふ。私はまだ税金を納めることのできる年齢ではないが、将来、責任を持つて税金を納めていきたいと心から思う。私たちが税金のおかげで助かったように、納めた税金が必ず誰かの希望になっていると確信して。



和水町長賞



菊水中学校 三年 谷崎真唯

『軽減税率のメリット、デメリット』

私は、今まで税について気になっていたことがある。それは、平均やダイソーなどでよくあることで、物によって税のかけられ方が異なるということだ。ある日、買い物をしてみると、10%だと思って買った時、10%でなく8%で売っていた。なぜ、商品によって税のかけ方が違うのか。ものによって税をかける時と不利になってしまうものはないだろうか、税は平等にしないといけないのではないのかと思ひました。しかし、この税のかけ方が違うのには理由があった。

それは、物によって税を変えることで、消費税増税による消費者の負担を軽減するためだということだ。この、物によって税を変えることを「軽減税率」といって標準税率より低い税率を適用すること、または、適用される税率をいう。この「軽減税率」日本では2019年10月以降に導入された消費税率の軽減税率制度をさすことが多いことが分かった。この制度が導入されたのは、消費者を思つての行動だと知ることができた。ま

た、その基準でも、飲食料品など一部生活必需品の税率を8%に据え置くことで、所得が低い人ほど税負担が重くなる「消費者の逆進性」を緩和している。また消費税だけでなく企業側のメリットとしては、軽減税率対象品目の売上低下の緩和ほか、テイクアウトや出前、宅配サービスの需要増加など、お互いにメリットがあることが分かった。

私は、今まで「税」について深く考えていなかった。しかし、いざ調べてみるとこんなにも「税」って大事なんだということを改めて知ることができた。私たち買う側にも売る側にもお互いにメリットを生むことが分かった。しかし、この制度のデメリットはないだろうか。そう考えた時、調べてみることにした。すると、対象品目の棲み分けの曖昧さなどのデメリットがあることが分かった。また、飲食店などの税率が10%になる事業者にとっては、外食を控える消費者が増えてしまうなど、デメリットになることもある。より深く調べていくと、税率が減るといふ問題もあった。この制度を導入すると、すべての対象品目の税率を10%に増やした場合と比べ、税率が少なくなり、また税率が十分でなければ、それを補うための増税や現税率制度の見直しや、新制度導入の検討などがおこる可能性があるということが分かった。このことから私は、確かにデメリットは大きいがこの制度は間違っていないと感じた。「税」は難しいことだが、この「軽減税率」のおかげでお互いが平等な関係になっているのでとてもいい制度だと思つた。